



通学路緊急合同点検に参加して

学校教育課長 吉田 泉

通学路の緊急合同点検は、ご存知のとおり、4月以降相次いで発生した登下校中の悲惨な交通事故を受け、文科省の指示に基づき全国一斉に実施したものです。

佐渡市では8月中の3日間、道幅が狭く歩道がない、見通しの悪い交差点等の危険箇所について、関係機関とともに点検を行いました。

点検中、現場では多くの車両が通過して行きましたが、明らかに違反を犯しているドライバーが散見されました。安全安心な通学には、道路施設設備の改修等ハード面の対策が不可欠ですが、交通法規の励行こそが最も重要であると感じました。

道路交通法には多くの歩行者保護規定があり、その一つに「歩道のない道路において歩行者の近くを通過するときは、歩行者との間に安全な間隔（目安は1.5m以上）をあけるか、間隔をあけられないときは徐行（直ちに停車できる速度での進行）しなければならない」という規定があります。

今回の点検は、このような歩行者を事故から守る保護規定や道路標識を再確認するなど、安全運転の基本に立ち返る大変よい機会となりました。皆様も今一度、交通法規を確認してはいかがでしょうか。

最後に、ある小学校の通学風景をご紹介します。それは、押しボタン式信号機のある横断歩道で、集



団登校のリーダーと思われる児童が、下級生が渡りきった後、先頭車両の私と反対車線のドライバーに深々とお辞儀をしたことです。通勤途中での一コマでしたが、心が和むとともに、先生方の立派な指導に敬服した次第です。

声を掛け合い資質能力を高める

管理主事 新発田 靖

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」（平成24年8月28日）の中で、教員に求められる資質能力を以下のように整理しています。

(i) **教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力**（使命感や責任感、教育的愛情）

(ii) **専門職としての高度な知識・技能**

- ・ 教科や教職に関する高度な専門的知識（グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む）
- ・ 新たな学びを展開できる実践的指導力（基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力）
- ・ 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力

(iii) **総合的な人間力**（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）

これらを身に付け、発揮するには、個人の研修とともに具体的な仕事を通じた研修（OJT）が有効と考えます。日々の仕事について、「〇〇先生！△△で困っているんです。」「それはね…」と気軽に声を掛け、みんなで考えるという関係の中で培われていくのではないのでしょうか。

教職員同士が声を掛け合い、資質能力を高める職場づくりをお願いします。



全国学力・学習状況調査の分析

指導主事 香遠 正浩

1 佐渡市の結果

小学校は4科目で全国平均以上でしたが、中学校はどの科目も全国平均に達しませんでした。

全国学力調査の平均正答率 (%)

	科目	全国	新潟県	佐渡市
小	国語A	81.6	81.9	81.6
	国語B	55.6	55.7	56.0
	算数A	73.3	74.2	74.4
6	算数B	58.9	58.8	58.5
	理科	60.9	61.7	63.6
中	国語A	75.1	75.0	74.3
	国語B	63.3	62.7	61.0
	数学A	62.1	61.1	56.7
3	数学B	49.3	47.4	42.7
	理科	51.0	50.4	49.2

2 質問紙から分かる佐渡市の特徴

児童生徒質問紙の結果から佐渡市の特徴を挙げてみます。

- ・ 普段2時間以上テレビを見ている中3生が多い。(佐渡67.0% 全国59.1%)
- ・ 学習塾に通っている子どもは少ない。
(小6：佐渡30.8% 全国47.6%)
(中3：佐渡30.9% 全国63.8%)
- ・ 普段1時間以上家庭学習をしている中3生が少ない。(佐渡45.5% 全国66.4%)
- ・ 数学が好きと答えた中3生が少ない。
(佐渡44.5% 全国52.1%)

3 学校における分析の観点

各学校においても、自校の正答率が全国や県の平均より高かったかどうかには目が行きがちです。しかし、平均点が全国を上回ってさえいればよいというものではありません。様々な観点から分析をする必要があります。特に大事なのが、以下の二つの観点です。

一つめは「**内容別の分析**」です。正答率が全国や県に比べて極端に低い問題はないかどうかです。あった場合は、なぜそのような結果になったのか原因を探り、改善策を立てます。

二つめは「**一人一人についての分析**」です。

ア どの科目も正答率が低い児童生徒はいないか。

イ 科目間で大きな差がある児童生徒はいないか。

ウ 質問紙で心配な回答をしている児童生徒はいないか。



ア～ウに当てはまる児童生徒がいた場合は、該当児童生徒について、その支援策も含めて全職員で共有するとよいです。

児童生徒数の少ない学校はもちろん、多い学校においても、平均点ではなく「内容別の分析」及び「個別の分析」をお願いします。

あいさつ運動

教育指導主事 吉田 久人

今年度も全島一斉「愛さつ・声かけ運動」が各学校・各中学校区で今月（統一実施日10月19日）実施されることになりました。

この運動は平成22年の「佐渡地区心つながる地区の集い」で提案され、「佐渡に広げよう愛さつ・声かけ運動」として始まっています。当時の児童生徒の思いがこもった佐渡独自の絆づくり運動になっています。趣意書には、「家庭・学校・職場・地域社会が連帯し、誰もが安心して暮らすことのできる社会づくりを進めるため、運動を進めてまいります。あいさつや声かけが佐渡島内に飛び交うようになれば、明るく、楽しい佐渡になると思います。」とあります。

子どもたちの思いが「あいさつ・声かけ」として地域に広がるよう運動を推進して下さるようお願いします。